

インド仏跡巡拝の旅

高松文樹

78

小誌『パールナシクス』に連作中の詩へ空<sup>く</sup>を  
 を完結させ、九冊月の詩集『空無』を刊行す  
 るため、釈尊の国インドへ旅立つ決心をした  
 のは、一年前のことだった。色々アソナを  
 広げて具体化する段階になって、同人のS氏  
 の協力で、山口県の曹洞宗のヘインド仏跡巡  
 拝✓の企画を知った。七人の僧を中心にした  
 山口県のメンバー十六人の中に、唯一人福岡  
 から参加することになった。仏縁である。

現役時代、会社の海外研修で、一か月間政  
 米に出かけたのは、二十三年昔のことである  
 。押し入れから、当時の疲れを大型トランク  
 へサムソナイト✓を引きずり出し、やさしく  
 撫でながら、老いたもの同士で、十二日間の  
 旅に出たのは、一月二十三日。期待と不安の  
 入り交じった福岡空港のスタートである。  
 その夜、シンガポール航空の乗り継ぎで、  
 インドの首都デリーに着。二十四日、ムガル